

2017.6.14 ハッピーブルーウォール（寄贈作品）除幕式がモンゴル日本人材開発センターで行われました。

2014年にパリ日本文化会館・グランドフロアーで個展をした作品の3分の2は既に日本国に寄贈済みでしたが、今年、センターが15周年を向かえることになり、幸いフランスで展示の機会を待っていた残り3分の1の作品をモンゴルへ移動し、モンゴルの発展と日本との友好の為に寄贈することにいたしました。

（後援：国際交流基金、国際協力機構 JICA、その他）



メディア

[報道ニュース](#) [モンゴル国営テレビ](#)

新聞記事「モンゴル通信」モンゴル国営モンツァメ通信社

MONGOLIAN NEWS AGENCY
MONTsame

モンゴル通信

06月15日
2017年
No.24 (第613号)

国営モンツァメ通信社発行

E-mail: montsushin@montsame.gov.mn, montsushin@hotmail.com

1部 1000tg

モ・日をつなぐ“ハッピーブルー” 盛大な陶板除幕式挙行



116番学校児童によるパフォーマンス

6月14日、モンゴル日本人材開発センター（通称：日本センター）において、両国外交関係樹立45周年の記念すべき行事が催された。沖縄石垣島の陶芸家金子晴彦さんの手になる「ハッピーブルーウォール」の除幕式が同センター・ロビーで挙行された。高岡正人在モンゴル日本国特命全権大使をはじめ、ダワードルジ・センター所長、ボルド教育文化科学スポーツ省文化芸術政策局長、オチルホヤグ国立大学副学長、ウランチメグ国立芸術大学芸術デザイン学部長、江口喜多枝モンゴル子供支援ネットワーク日本代表らの祝辞を受け、やわらかな光射し込む正面壁に取り付けられた32枚の陶板が美しい姿を現した。沖縄の透明なブルーと、モンゴルの高い空のブルーが溶け合っってひとつになった陶板は、あたかも両国友好促進のシンボルとなって、人々の胸に強く印象づけられた。「情熱のこもった作品」と高岡大使から評されたこの作品は、モンゴル国有財産となって、今後、永久に同センターの壁面で輝きを留めるであろう。日本センターへ寄贈の経緯は、長年モンゴルに於いて子供の教育支援を続けてきた江口喜多枝さんの尽力があつてのことだ。

フランスの伝統ある展覧会で、陶芸作品として初めて金賞を得た金子さんの陶芸への思いは、「失敗を恐れず、誰も作っていない作品への挑戦」。パリをはじめ、海外で高い評価を得ているのも、誰にも真似できない創作、どこにもない色彩の妙が惹きつける魅力に他ならない。

今後は、モンゴルの障害者児童に陶芸の指導を行う予定や、芸術大学での指導など、モンゴルと深くかわって、「沖縄の鮮やかな海の色」の表現を追求し続けていくという。

